

大津・南部の農業

●発行●

滋賀県大津・南部農業農村
振興事務所農産普及課
住所:草津市草津三丁目14-75
TEL:077-567-5421~5423
FAX:077-562-8144
E-mail:ga35@pref.shiga.lg.jp
発行責任者:住谷 一樹

この印刷物は古紙/リブを配合しています

農山漁村発イノベーションプランナー

派遣制度を活用しませんか？

<制度の紹介>

6次産業化は、収益を向上させるための取組として有効な手段のひとつです。県では、6次産業化を推進するため、「農山漁村発イノベーションプランナー派遣制度」を実施しています。この制度では、地域資源を活用し、新しい商品やサービスを創ろうとチャレンジされる農業者等に対して、無料で専門家（プランナー）の派遣を行い、経営改善と課題解決のサポートを行っています。農業者自身のニーズに沿って、加工品やカフェメニューの開発、ロゴやパッケージ等のデザイン、販路拡大、経営分析、戦略づくり、デジタル化等、多岐にわたる分野の専門家の助言や提案を受けることができます。

令和6年度は、管内で5事業者が活用されています。



制度の詳細はこちら
(県ホームページ)



<制度活用事例>

栗東市でブルーベリーやモモ、ブドウ等を栽培されている「はしり Farm」今岡智恵美さんは、昨年度からこの制度を活用され、今年6月にブルーベリー観光農園をグランドオープンされました。農園カフェも併設されており、専門家からは、カフェメニューの開発や販促資材の作成、ブルーベリー摘み取り体験の予約システム整備等のサポートを受けられました。

制度に関する問い合わせは当課までよろしく申し上げます。

大津・南部農業農村振興事務所では、管内の農業・農村振興情報をFacebook、Instagramで発信しています。今後も農業用水工事や産地、栽培技術、イベントなどの情報を発信しますので、ぜひご覧ください。



Facebook



Instagram

『みおしずく』デビュー2年目に向けて

令和5年から本格生産がスタートした県オリジナルイチゴ品種「みおしずく」。市場等への共同出荷を目的に発足した“JAレーク滋賀管内みおしずくグループ”は、令和5年12月から令和6年5月にかけて、県内量販店で約13,000パックを販売し、さらに東京の百貨店等関東方面への販売も行いました。県民のみなさまには滋賀県で生まれ育った「みおしずく」を食べることで地域農業を応援していただきたいと考えています。

栽培面においては、本県主力品種である「章姫」と同等以上の約4t/10aの収量が見込め、令和5年産では約6t/10aの高収量を達成された生産者もおられました。今後は県内流通量をさらに増やすために、特に市場出荷向けの生産拡大を進めます。令和7年産の苗は10月頃に募集する予定ですので興味がある方は当課までご連絡ください。



みおしずく果実(上)と栽培の様子(下)

花き栽培でハウスを有効に利用してみませんか？

地元の直売所では特に年末に花き類の人気の高まります。品目によっては、夏から栽培を開始して間に合うものが多くあります。水稻育苗ハウスなどの空いた施設でも栽培することができ、施設の有効利用も可能です。夏の栽培で注意が必要となるのが、播種や育苗の管理作業です。高温や乾燥に気を付けて、農舎の日陰や、遮光資材を利用するなどしましょう。また、ハウスでの作業時には熱中症に十分ご注意ください。花き栽培に興味がある方は当課までご連絡ください。



寒小ギク



ストック



ハボタン

▽：播種または挿し芽、○：定植、□：収穫

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
寒小ギク		▽-----○					□
ストック			▽---○				□
ハボタン		▽---○					□

新たに認定された指導農業士の紹介

指導農業士制度とは、担い手の育成、農業振興のリーダーとして活躍していただく農業者を市長の推薦により、知事が認定する制度です。今年度は新たに2名が認定され、管内の指導農業士は総勢22名となりました。



草津市 田淵 竹男さん



田淵さんは、草津市を中心に水稻と野菜を生産し、輪作体系により土壌病害の回避に取り組まれています。

野菜は、ビニルハウスも活用しながら安定出荷に取り組まれています。

県立農業大学校や湖南農業高校などの研修生の受け入れも積極的に取り組まれています。草津市機械銀行に所属し、地域の農地の耕作を担っておられ、また、北山田畑地土地改良区の理事長として農地の保全にも尽力されています。



野洲市 北脇 真吾さん



北脇さんは、野洲市で水稻、麦、大豆を生産されています。

水稻栽培面積の約半分環境こだわり栽培を行うなど、農薬の使用を必要最低限に留め、環境負荷の少ない農業生産に積極的に取り組んでおられます。また、地主さんとの関係が一番大切と考え、水田の健全な管理だけでなく、日々の挨拶やコミュニケーションを大切にして、地域の活性化に努められています。



滋賀県立農業大学校の紹介

～実践学習を通じて栽培技術や農業経営を学んでみませんか～

- ◆**修業年限**：養成科2年（募集定員 30名、所在地 近江八幡市安土町大中503）
- ◆**専攻コース**：水田農業、茶、施設園芸（野菜・花き）、果樹、畜産
- ◆**願書受付期間**：**推薦** 令和6年10月4日(金)～10月17日(木)まで
一般 令和6年11月22日(金)～12月4日(水)まで
- ◆**試験期日**：**推薦** 令和6年10月28日(月)
一般 令和6年12月13日(金)



農業大学校HP

※就農科・オープンキャンパスについては、農業大学校ホームページをご覧ください。

スマート農業技術の導入を推進しています



『衛星画像による生育診断』と『データ連動型農業機械』の活躍に期待！

農作物の収量・品質向上や労力不足といった課題の解決策として、管内では直進アシスト機能付きの田植機の導入や農業用ドローンによる農薬散布などのスマート農業に取り組む事例が増加しています。当課では、スマート農業技術の活用をさらに促進するため、小麦における自動可変施肥の実証を行いました。小麦の穂肥や実肥の散布は、動力散布機を用いて行われることが多く、身体的な負担が大きい作業です。また、作業者の経験や勘に基づいて散布されることから、散布ムラが生じやすく、収量や品質がばらつく原因のひとつとなっています。



GPSブロードキャストによる穂肥散布(2月)

2月と4月に実施した実証では、作業の省力化と精密化をねらいとし、衛星画像をもとに作物の生育状況の分析を行うシステム「ザルビオ[®] フィールドマネージャー」と、GPS連動が可能なブロードキャストや大型の農業用ドローンといったデータ連動型農業機械を組み合わせることで、生育に応じて自動で施肥量を調整できることを確認しました。今後、技術の有効性などの評価をすすめ、地域での普及性を検討します。



大型農業用ドローンによる実肥散布(4月)

人・農地の未来を考える「地域計画」を作成しましょう

「地域計画」の作成期限が令和7年3月に迫ってきています

「地域計画」とは、地域での話し合いにより目指すべき将来のあり方と農地利用の姿を明確にする計画です。従来の人・農地プランに目標地図（農地一筆ごとに今後利用する農業者を示した地図）が追加されるイメージです。

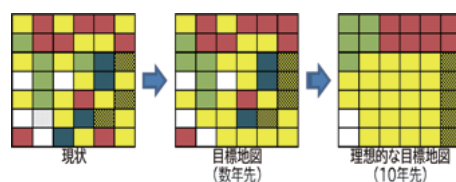
地域計画＝地域農業の将来のあり方＋目標地図

【作成の手順(例)】

- ①現状の整理 地域内の農地ごとに所有者と耕作者を整理し、現況地図を作成しましょう。
- ②将来の見通し、意向等の把握
農業者の年齢、後継者の有無、将来の耕作意向をアンケートなどで確認しましょう。
- ③将来について話し合い

②に基づき農地1筆ごとに10年後の耕作者を明確化し、地域計画、目標地図を完成させます。

*右図のように担い手に集積、集約した目標地図の作成が理想ですが、合意が難しい場合は一旦数年先の姿で目標地図を作成し、その後随時見直しを行いながら地域にふさわしい地域計画に改良していきましょう。



目標地図作成の手順(イメージ)

この機会に地域農業の将来について話し合いを持ち、農業者のみなさまが永年守ってきた農地を後世に受け継いでいきましょう。ご相談は各市の農政担当窓口まで。